（様式1）

平成２４年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 024	**提案機関名**	自然環境保全センター
要望問題名	大規模ギャップにおける森林再生に関する研究	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 丹沢主稜線では、日高、竜ヶ馬場、不動ヶ峰、蛭ヶ岳などの南面及び南西面を中心に、ブナの集団枯死により森林が草原化した区域（大規模ギャップ）が広がっています。 このようなブナ衰退に起因する大規模ギャップにおいて、当センター自然公園課等とも連携の上、植生保護柵を活用して植生遷移の状況の追跡調査を行うなど、草原化した森林の再生に関する試験研究を要望します。		
解決希望年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内	
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術所　③水産技術センター ④自然環境保全センター	
備　考		

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	**担当部所**	研究連携課
対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可		
試験研究課題名 （①、②、④の場合） ブナ帯森林再生のための実証的研究			
対応の内容等 堂平や丹沢山、檜洞丸のブナ枯れ地において平成 19 年度から行っている上記研究課題から、開空度 30%以上のギャップでは周辺樹木からの種子散布量が少ないこと、高茎草本やミヤマクマザサが繁茂するため樹木実生が定着できないことがわかりました。一方、植栽木の生存率は高いことがわかりました。ただし追跡期間が最長 4 年のため、この結果の大ギャップでの適応性には未確定な部分があります。 そこで、既存試験地で継続してモニタリングするとともに、当センター自然公園課や野生生物課、東京神奈川森林管理署と連携して大規模ギャップに試験地を設置して、埋土種子の発芽試験やササ刈取試験などにより森林再生の可能性を調査していきます。			
解決予定年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内		
備　考			